

平成 28 年（2016）の干支・御題菓子販売

株式会社虎屋は、平成28年（2016）の干支「申（さる）」と歌会始のお題「人（ひと）」にちなんで新商品を、年末年始の期間限定で販売いたします。

大切な方への御歳暮や、年始のご挨拶に、おめでたい、この時季ならではの菓子をご利用ください。

＜平成28年（2016）は申年＞

猿は智恵や才能に富んだ動物として考えられています。その猿にちなんだお菓子をご紹介します。

干支羊羹 はねざる『跳猿』

新年をことほぐ鮮やかな紅に、猿の尾を表わす黒を配した煉羊羹。猿が長い尾を巧みに使い、木から木へと軽やかに飛び移る姿を表わしました。

販売期間：2015 年 11 月 20 日～2016 年 1 月下旬

販売店舗：全店

価 格	： ハーフサイズ 1 本 (330g)	1,944 円
		(本体価格 1,800 円)
	竹皮包 1 本 (330g×2)	3,888 円
		(本体価格 3,600 円)

※写真はハーフサイズです。



『^{やま}山に^{あそ}遊ぶ』 羊羹製 白餡入

山の中で楽しげに遊ぶ、紅い顔と茶色い毛並が特徴のニホンザルを思わせます。

販売期間：2015年12月16日～2016年1月15日

販売店舗：生菓子取扱店全店

価 格 : 1 個 443 円 (本体価格 410 円)

※「小麦」を含む



干支パッケージ 小形羊羹

『夜の梅』（小倉羊羹）、『おもかげ』（黒砂糖入羊羹）、『新緑』（抹茶入羊羹）の3種類を、干支「申」のパッケージでご用意しました。

販売期間：2015年11月20日～2016年1月上旬

販売店舗：全店

価 格 : 各 1 本 260 円 (本体価格 240 円)
5 本入 1,404 円 (本体価格 1,300 円)



『見^みざる 言^いわざる 聞^きかざる』 桃山製
特製白餡入

目、口、耳をそれぞれ塞いだ「三猿」とよばれる三匹の猿が、身を寄せ合うさまをかたどったお菓子です。

(特製白餡…白餡と白飴餡を混ぜ合わせたもの)

販売期間：2015年12月16日～2016年1月15日

販売店舗：東京・京都地区の生菓子取扱店

価 格 : 1 個 389 円 (本体価格 360 円)

※「卵」を含む

※アルコール濃度1%未満

<平成 28 年（2016）の歌会始のお題は「人（ひと）」>

お題「人」にちなみ、おつくりしたお菓子をご紹介します。

「歌会始」について

人々が共通の題で歌を詠み、その歌を披講する「歌会」。その中でも、天皇によって開催されるものを「歌御会」といい、年の始めに開かれるものは「歌御会始」と呼ばれていました。大正 15 年（1926）以降は「歌会始」と改められ、今に至ります。平成 28 年（2016）の歌会始のお題は「人（ひと）」です。

「御題菓子」とは？

その年の歌会始の「お題」にちなみ、考案されたお菓子。明治 7 年（1874）、それまでは皇族・側近のみの参加であった歌会始に、国民の参加も認められるようになりました。こうして歌会始の「お題」が身近なものになってきたことも背景に、明治 21 年（1888）、京都の上菓子屋の有志が集まり、「お題」にちなむお菓子の展示を開催。これをきっかけに「御題菓子」をつくる店が増えていきました。当店では明治 40 年（1907）に、歌会始にちなんだお菓子をおつくりした記録があります。



御題羊羹 『ぬくもりの記憶』^{きおく}

寄り添う親子を思わせる 2 つの丸い紅煉羊羹で、ほのぼのとしたひとときを表現しました。

販売期間：2015 年 11 月 20 日～2016 年 1 月中旬

販売店舗：全店

価 格：ハーフサイズ 1 本（330g） 1,944 円
（本体価格 1,800 円）

竹皮包 1 本（330g×2） 3,888 円
（本体価格 3,600 円）

※写真はハーフサイズです。



『心 百花』^{こころひゃっか} 求肥製 白餡入

「十人十色」という言葉があるように、人それぞれ考えや感性は異なります。『心 百花』は、人の心が花の種類のように数多あるさまを、色とりどりのカルメラで表わしました。

販売期間：2015 年 12 月 16 日～2016 年 1 月 15 日

販売店舗：生菓子取扱店全店

価 格：1 個 486 円（本体価格 450 円）

※「卵」を含む

羊羹と正月の深い関係？

江戸時代、有名な菓子屋の一つであった^{かなざわたんご}金沢丹後の暑中・寒中・年頭の付け届け先とその内容を記した記録からは、年頭に寺社・武家などの得意先に羊羹を贈っていたことがわかります。また、江戸深川に店を構えた^{ふなばしやおりえ}船橋屋織江も、店の名物「難波羹」を配っていたそうです。

一方で、羊羹は一般にも年賀の品として使われていたようです。たとえば、「新板大江戸名物双六」の「鈴木やうかん」（鈴木越後の羊羹）のコマは年始回りの絵で、大きな角盆に並べた羊羹や菓子袋が見えます。

このように、羊羹は昔から大切な相手への贈答であったことが想像されます。

取材に関する問い合わせ先

株式会社 虎屋 社長室 広報課
東京都港区元赤坂 1-2-7 赤坂 K タワー 7 階
メール：kouhou@toraya-group.co.jp

担当：アルバ・カルサド サンチェス
電話：03-3408-4128 / FAX：03-3408-6274
www.toraya-group.co.jp